



韓国ニューリーダー訪日団 招へい事業の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】韓国全土から選抜された大学生等を招へいし、講義聴講、企業及び大学訪問、テーマ「国交正常化 60 周年、今後の日韓交流へ向けて」に沿った各種視察、交流等を通じて、日本に対する理解を深めることで、今後の日韓間の相互理解と信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的として実施しました。

【参加者】韓国の大学生等 合計 34 名

【訪問地】埼玉県 34 名、東京都 34 名、広島県 34 名

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習事）：

12 月 5 日（金）オリエンテーション（プログラム説明）、参加者による対外発信

■ 招へいプログラム：

12 月 20 日（土）成田国際空港から入国、来日時オリエンテーション、埼玉県へ移動

12 月 21 日（日）【視察・講義】高麗神社「～高麗郡建郡 1300+10 年へ～渡来から未来へ」
東京都へ移動

【視察】東京国立博物館

12 月 22 日（月）【表敬・講義】外務省「最近の日韓関係」

【表敬】駐日韓国大使館

【視察】李秀賢氏追悼・顕彰碑含む新大久保フィールドワーク

12 月 23 日（火）【企業訪問】アサヒグループホールディングス株式会社

【交流】日韓文化交流基金主催 国交正常化 60 周年記念トークセッション

12 月 24 日（水）【大学訪問】慶應義塾大学三田キャンパス

【視察】国会議事堂

12 月 25 日（木）広島県へ移動

【表敬・講義】広島県庁「広島の魅力」

【交流】ホームステイ対面式

12 月 26 日（金）終日ホームステイ

12 月 27 日（土）ホームステイ解散式

【講義】被爆体験講話

【視察】広島平和記念資料館、平和記念公園（原爆ドーム、韓国人原爆犠牲者慰霊碑等）

アクション・プラン及び感想報告会

12 月 28 日（日）広島空港から出国

2. 記録写真



12月21日【視察・講義】高麗神社「～高麗郡建郡1300+10年へ～渡来から未来へ」



12月22日【表敬・講義】外務省「最近の日韓関係」



12月22日【表敬】駐日韓国大使館



12月23日【企業訪問】アサヒグループホールディングス株式会社



12月23日【交流】日韓文化交流基金主催 国交正常化60周年記念トークセッション



12月24日【大学訪問】慶應義塾大学三田キャンパス



12月25日【表敬・講義】広島県庁「広島の魅力」



12月25日【交流】ホームステイ対面式

	
<p>12月27日【講義】被爆体験講話</p>	<p>12月27日【視察】広島平和記念資料館</p>

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 大学生

今回の日程は、日本と韓国の交流について改めて考えることができる有意義な時間でした。高麗神社では、日韓交流の歴史とその流れをテーマにした講義を聞きながら、過去の渡来人の歴史や両国のつながりを理解し、日韓関係を歴史的脈絡の中でとらえることができるようになりました。また、東京国立博物館では様々な遺物と展示を観覧しながら、日本の歴史と文化を直接目で見て確認することができ、このような経験は教科書や資料で接した内容をより立体的に理解するのに役立ちました。外務省で行われた「最近の日韓関係」に関する講義や駐日韓国大使館への訪問を通じて、両国の外交関係の現状と課題をより現実的に感じることができました。日韓文化交流基金が主催した国交正常化60周年記念トークセッションやアサヒグループホールディングス株式会社会長の講演を通じて、民間レベルでの交流と協力の重要性も印象深く感じられました。

◆ 韓国 大学院生

日本という国を構成する一人の（あるいは複数の）人々に直接会うことができたということが大変重要な経験になりました。具体的には、国交正常化60周年記念トークセッション及び慶應義塾大学訪問時の日本の大学生との出会いが良かったです。私とは異なり、すでに今まで日韓交流に積極的に参加してきた学生たちが目を輝かせながら自分の意見を語る姿が印象深かったです。

◆ 韓国 大学生

高麗神社を訪問したことで、日本との心理的距離がより近く感じられるようになりました。また、ホームステイを通じて、日本の生活を直接肌で感じながら学ぶことができ、これから長い間記憶に残る思い出を作りました。今後もこの関係を続けていくことができればと思います。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 広島県庁

本県の韓国人の国際交流員から、広島県の隠れた宝物と題して広島県の豊かな自然や食文化、伝統芸能等、本県の魅力の紹介や、本県と令和7年11月に友好提携を締結した慶尚北道との交流についてご説明を行いました。訪日団の皆様からは、国際交流員から見た広島県の印象や観光地等、多くの質問があり、

広島に興味を持っていただけたものと思います。皆様にはぜひ再び広島を訪れ、広島の魅力をさらに感じていただくとともに、将来、日韓の友好の架け橋となって活躍していただくことを願っています。

◆ アサヒグループホールディングス株式会社

アサヒグループの哲学や事業・歴史、そして韓国でのビジネスについて紹介いたしました。大学生や大学院生からはたくさんの質問をいただき、皆さんの積極的な姿勢に感銘を受けました。スピーカーである会長の小路のこれまでのビジネスキャリアに関する質問から、「時代の変化に対応するための経営戦略」「アルコールビジネスに対する展望とそれに対する戦略」「グローバル企業としてのブランディング」に至るまで多岐にわたる質問をいただきました。日韓国交正常化 60 周年の節目に、韓国のニューリーダーの皆さんと共に今後の更なる日韓のより良い関係構築を誓い合う機会となりました。

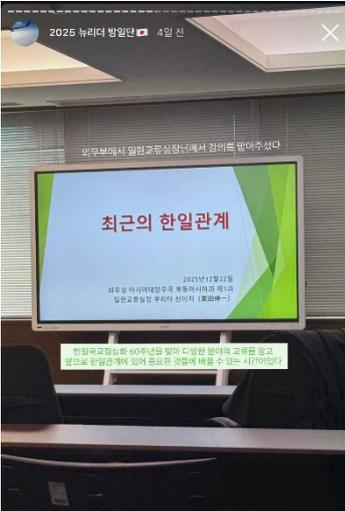
◆ 慶応義塾大学 西野純也教授

前回（2025 年 2 月）に続き、今回も韓国から多くの優秀な学生たちと、厳しい国際情勢下での日韓協力の可能性と課題について意見交換する機会を得ることができ、意義深い時間となりました。講義 40 分ほど、質疑応答は 50 分ほどでしたが、レベルの高い質問が途切れることなく続き、学生たちが国際情勢や日韓協力の深い関心を持っていることがよくわかりました。日韓関係の未来を担ってくれることを期待します。

◆ 江田島市ホームステイ受け入れ家庭

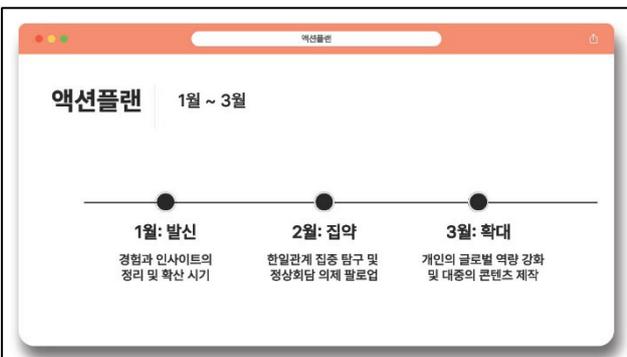
年の瀬、無事に韓国に着いたという知らせが思い出の写真とともに届きました。別れ際、「私たちの日本のおばあちゃん」と手を取り合いながら流した涙の温もりを忘れられません。このプログラムに参加できた喜びと幸せを語る姿は、次世代の韓国を担うリーダーとして日韓友好への強い意欲であふれていました。9 日間の充実した日本での訪問、そして視察後のホームステイでは、海に囲まれた江田島の自然をめぐりながら、家族としてうちとけ、様々な話をすることができました。人の願いや思い、心は国を越えて共感できる絆となるということを実感できた出会いとなり、感謝でいっぱいです。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

<p>거주, 일본에는 편의점보다 많은 수의 결과 신사가 있다고 알고 있는데 고마신사가 고구려계 도래인의 경수를 담고 있는 것처럼 수많은 신사와 절들이 각각의 역사와 의미를 가지고 있다는 것을 생각해 보면, 일본의 문화로서 전승·이어나가는 것 자체에 대한 강한 의지를 느낄 수 있는 것 같습니다. 사실 이어나가는 것은 일본뿐만 아니라, 모든 인류 국가에 대해서도 중요하니까, 인쇄술의 발전으로 인류가 기록하기 시작하면서 엄청난 발전을 보여주었던 것처럼요. 그런데 일본의 기록과 전승은 단순히 지식의 전달이라는 측면과는 궤를 달리하는 부분이 있는 것 같습니다. 신사나 테라같은 종교시설에 국한되지 않고, 집안의 가업을 잇는 것, 또 이번에 정말 바스로 일본 구석구석을 돌아다니면서 직접 발견 한 것인데 묘지가 신이나 깊은 곳에 있는 한국과는 달리 일본에서는 공동 묘지같은 시설들이 마을의 생활권 안에서 공존하고 있다는 느낌을 강하게 들었습니다. 다른 이야기 할 수도 있었지만, 아이누 문화에서도 무덤을 마을에서 매우 가까운 곳에 두면서도 있고 지내는·명절에 고백 방문하는 한국과는 다른·그런 이야기가 생각났습니다. 전반적으로 느낀 바기도 하지만, 이런 부분에 있어서도 한국과 일본의 의식구조가 확연히 다르다는 것을 느낄 수 있었던 것 같습니다.</p> 	
--	--

<p>2025年12月21日 (Blog)</p> <p>高麗神社と同様、日本にある数多くの神社仏閣がそれぞれの歴史や意味を持っていることを考えると、日本の「伝承」に対する強い意志を感じました。日本における記録や伝承は、単に知識の伝達という意味ではないようです。家業を継ぐことや、韓国のように墓地が山深い場所ではなく、町中の生活圏に共存していることから見ても、韓国の意識構造とは明白に異なるということを感じました。</p>	<p>2025年12月22日 (Instagram)</p> <p>外務省では日韓交流室長による講義を聴講しました。日韓国交正常化 60周年を迎え、日韓間では様々な分野での交流があることを知りました。また、今後の日韓関係において重要なことを学ぶ機会となりました。</p>
 <p>📍 =</p> <p>너무 알차고 좋은 프로그램이었습니다.</p> <p>왜 SNS 포스팅이 중요한가. 일본의 발전과 기록의 문화를 특히 느꼈다. 보여주는 것이 아니라, 남겨두는 것. 누군가에게 직접적으로 보여지고 그런 대상을 상경하는 게 아니라, 일단 말하고 기록하는 것 자체에 의의를 두는 것. 보여주는 것은 보여준다면 그 목적이 끝나서 소멸하지만 남겨두는 것은 소멸에 대한 저항. 두고두고 살아가는 것. 도쿄국립박물관과 히로시마 원폭 돔, 평화기념자료관에서 느꼈음. 일본인으로서 잊는 것이 아니라, 두고 살아가는 것. 한국과 일본인의 관념에 대한 깊은 차이를 느꼈다. 일본 전공을 함으로서 느끼는 것은 일본과의 관계는 여러 공통점을 한자, 농경문화로 온 다양한 공통점. 그런 걸로 시작해서. 방금 말했던 사소한 보이지만 중요한 관념에서의 차이를 크게 느끼는 경우가 몇 번 있었고, 이번 방 일대에서 그런 부분을 느꼈던 것 같다. 그런 차이를 알아가는 것. 타자를 느끼는 것에서 관계가 완성된다고 생각합니다. 오쿠라 대사님의 한일관계에 대한 인식도 영향을 끼쳤습니다. 앞으로의 한일관계가 정말 공통점만으로 나아갈 수 있을까? 당장의 이익만 보고 가는 것은 교류가 아니라 유착이라고 구분했습니다. 양국 문화에 대한 깊은 이해 없이 저출산 고령화 같은 초국가적인 단론을 다루는 것은 위험한 생각. 차이와 공통점 사이에서 서로를 인식하는 게 관계 발전이자 진정한 한일 관계의 미래가 될</p>	
<p>2025年12月27日 (Instagram)</p> <p>8歳の時に被爆した方による講義を聴講し、平和の重要性について再確認しました。また、広島平和記念資料館や平和記念公園内の韓国人原爆犠牲者慰霊碑を視察し、核兵器の使用や戦争は二度と起こってはならないことだと心から思いました。</p>	<p>2025年12月27日 (Blog)</p> <p>日本について専攻していると、日韓間の共通点だけではなく、時折、重要な観念上での違いを感じることがありますが、今回のプログラムではそのような違いを多く感じました。共通点と相違点の間で互いを認識することが関係の発展であり、真の日韓関係の未来へとつながっていくと思います。</p>

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表 (概要または抜粋を記載する)

	
<p>【成果の発表】</p>	<p>【成果の発表】</p>

- ・東京国立博物館や広島平和記念資料館、また、訪日中に交わした日本の方々との対話を通じて感じたことは、日本の記録文化は「見せる」という意味よりは、「残す」ことに近いと思いました。
- ・国家対国家の枠組みから離れ、人対人としてコミュニケーションを図ったことで、日本に対する漠然とした敵対心が解消されました。
- ・トークセッションへの参加を通じて、日韓両国の学生間の認識の違いを再確認する機会となり、改めて相互理解の重要性について実感しました。

【アクション・プラン】

- ・1月の日韓首脳会談の主要議題から日韓関係の転換点や未来の展望について導き出すとともに、安保協力等、核心的な懸案事項について、深みのある討論や議論を重ね、知見を深めます。
- ・訪日期间中に発信した SNS 上の記録や個人的な考えについて、デジタルアーカイブで整理します。この空間には、個人的な日本語の勉強記録、文化体験、講演聴講後の考え方の変化まで盛り込み、訪日経験を一度きりの思い出にするのではなく、長く残る記録として保存します。
- ・アサヒグループホールディングスが海外進出した際の戦略的資金調達方法について研究し、分析します。
- ・日韓両国のスタートアップの成功事例を分析し、その成功要因やインサイトを導き出します。
- ・日韓関係について、非専攻者にもわかりやすい例や用語を用いたコンテンツを制作します。
- ・ワーキングホリデイの準備をする予定です。

- ・日韓関係について、歴史や外交を中心とした凝り固まった見方をしていましたが、トークセッションへの参加を通じて、機微なテーマであっても互いの立場を認め合う対話が可能だということを実感できました。メディアを通じて形成されたイメージよりも、直接会って交流することこそが先入観をなくす最も効果的な方法だということに気づきました。

- ・北朝鮮による核の脅威に直面している韓国人としては、反核運動や被爆者の証言に対して現実味を感じることができず、冷ややかに見ている部分がありましたが、今回、被爆体験講話を聴講したことで、直接的な出会いが偏見をなくす重要なきっかけになることを再認識しました。

- ・ホームステイを通じて、地域コミュニティの中で生きる日本人の生活を体験し、日本社会の新しい一面を知ることができました。メディア等を通じて間接的に触れてきた日本文化の枠を超え、生活の中に息づく文化や感情を経験しました。

【アクション・プラン】

- ・訪日期间中に訪問した地域や学んだこと、ホームステイで経験したこと等について、大学新聞に寄稿します。
- ・日本の大学生と共に東京都内でフィールドワークを行い、これを基盤に、持続的な日韓交流へと発展させていきます。
- ・日本の大学院の修士課程への進学や、韓国国内で就職後も日本関連業務を担当する機会を得られるよう、日本に対する関心を持ち続けます。

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金